

英語科学習指導案

日 時 令和元年5月31日（金）公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
2年B組34名
会 場 集会室
授業者 山蔭 理恵

1 単元名 Lesson 2 Peter Rabbit (NEW CROWN ENGLISH SERIES New Edition 2)

2 単元について

(1) 生徒観

これまで生徒は、様々な言語活動を通して、自分自身や身の周りのことについて英語で表現する力を高めてきた。4月初めのアンケートでは、「英語が好きか」という問いに対し、約8割の生徒が肯定的回答をしており、英語の授業に意欲的に取り組むことができている。特に、新たな知識や技能を獲得することに喜びを感じる生徒が多い。また、分からないことを素直に自覚し、自ら質問しようとする姿も見られる。しかし、「英語が得意か」というアンケートの問いに対する肯定的回答は、約4割にとどまった。記述からは、英語は好きだが得意とまでは言い切れない自信の無さ、正確な表現へのこだわりと不安が読み取れた。

そこで、4月からの授業では、①様々なテーマについて相手とやり取りをした内容について書くこと、②聞いたり読んだりして内容理解が済んだ教科書本文をアレンジしてリテリング、リライトを行うことなどを通して、表現に対する情意面のハードルを下げたり、多種多様な表現の仕方（内容）を共有したりすることを意識してきた。生徒の感想からは、「表現」に対する印象の肯定的な変化が見られる。一方で、相手意識をもった発言・応対や目的意識をもったパフォーマンスの質的向上という点では、ペア活動やグループ活動の際の音量や相手の発話に耳を傾ける態度の不足、中庸で満足し現状維持に留まるなどの継続的な課題も感じられる。

前述した課題の改善、克服の手立てとして、本単元のまとめの活動では、生徒自らが選んだ「日本の物語」のあらすじを互いに読み聞かせる言語活動を扱う。内容や場面展開、登場人物の心情変化を理解し、物事や感情の機微を捉えた音声化をすることができるようにしたい。物語のあらすじを英語で表現する際の言葉の選び方や、伝え合う際の発話スピード、間、視覚情報の与え方など、単元での学びを通して、より相手意識をもった発話、関わりができるよう、変容を期待する。また、言語活動を繰り返す過程で、できるだけ多くの他者と関わらせ、英語で伝え合うことに対して生徒自身も持っている見方・考え方を広げたり、深めたりしながら、パフォーマンスや態度の質的向上を図りたい。

(2) 教材観

本単元は、新『中学校学習指導要領解説外国語編』の目標「(4) 話すこと [発表] イ 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができるようにする」を中心としながら、「(2) 読むこと イ 日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができるようにする」などの目標とも関連付け、複数の領域にまたがる統合的な言語活動を進めていくことができる単元である。

題材として、イギリスの児童文学「ピーターラビット」が取り上げられており、ALTの先生が日本人の生徒に本の内容を紹介する場面と、実際のピーターラビットの物語のあらすじが語られている場面で構成されている。中学校3年間の教科書題材の中で、初めて物語が取り上げられる単元であり、場面を想像したり、心を動かしたりしながら、実際の物語のストーリー（起承転結の展開）を楽しむことができる単元である。

また、言語材料としては、be動詞の過去形、過去進行形、接続詞 when について学習する。過去の出来事や状況、時系列をより適切に描写し、表現の幅を広げることが可能であるため、既習の現在形や現在進行形、接続詞 because などと関連付けながら学習を進め、言語活動を通して適切に活用できるようにさせたい。

小学校外国語活動及び外国語科においても、「Let's Try!」や「We Can!」の中で、日課や夏休み、干支などがテーマのストーリー性のある絵本題材が採用されている。今後ますます、題材を通して、自らの頭と心を動かし、考えや気持ちを伝え合ってきた児童を中学校に迎え入れることになる。現行の学習指導要領の課題としても挙げられている「言語材料について理解したり練習したりすること」に終始する言語活動ではなく、豊かな題材を通して「実際に英語を使用して互いの考えや気持ちを伝え合う」言語活動を展開したい。

(3) 教科研究との関わり

本校英語科では、全体研究主題「Society5.0を生き抜く『人間の強み』を育む学びの構想」のもと、教科研究主題を「互いの多様性を認め合い、共感的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」と設定し、育成を目指す資質・能力を、文部科学省が示した外国語科における「資質・能力」と、本校学校教育目標「よく考え、誠をもって働く人間」に沿って整理し直した(教科論参照)。また、教科研究の視点3点について、その手立てを4点掲げ、実践研究を進めていくこととした。

本単元では、単元のまとめの活動として、「海外の方に伝えたい日本の物語のあらすじを、絵を使いながら読み聞かせすること」と定める。相手(対象)や題材、発信の方法など、生徒に達成を求める課題を具体的に設定した上で、実際のコミュニケーション場面に即した「見方・考え方」を働かせることができるようにしたい。

単元のまとめの活動に向かう過程では、教科論の研究内容にも示している通り、手立て1「指導・評価計画の工夫」を軸とし、単元シートやルーブリックを用いながらコミュニケーションや題材についてスパイラルな振り返りを行い、「見方・考え方」を深化させたい。また、手立て3「『ホンモノ』題材の活用」にある通り、生徒たちの生活環境に根付いた日本の物語(児童文学、昔話)のあらすじ紹介という言語活動を行う中で、身近にある題材の価値の再発見、ひいては自己の感性を磨き、自分の考えや気持ちが反映される内容豊かなコミュニケーションを共感的に図ることへと繋げていきたい。

手立て1「指導・評価計画の工夫」(教科論より)

本校英語科では、新学習指導要領完全実施に向け、「資質・能力」との整合性を図りながら、「附属中学校CAN-DOリスト」および単元構想の修正、言語活動の分類や系統性、評価の時期や方法、回数等のリンクを行い、3年間の見通しをもてるよう、年間指導計画の整理を行っている。文法シラバスに縛られず、題材配列の組み直しや場面シラバスの洗い出しをすることで、どの学年のどの時期に、どのような題材を配置し、どのような言語活動を通して資質・能力を育成していきたいか、教員が能動的に指導計画を立てることが可能になる。また、各単元等のまとまりの中で身に付けさせたい見方・考え方について、題材の類似や相違、重点を置く資質・能力を明らかにすることで、広げたり深めたりする適正時期を見極めることができる。

教員のみならず生徒自身が、その内容を学ぶことで「何ができるようになるか」というイメージをもつことが主体的な学びを可能にする。そこで、前期研究に引き続き、毎単元においては、最初の1時間を学習の見通しと題材について興味をもたせる時間として設定し、単元の最後に行う表現活動(パフォーマンステスト)の内容を生徒と共有する。単なる知識・技能の習得にとどまらず、「何のためにその内容を学ぶのか」、その内容を学ぶことで「何ができるようになるのか」を生徒が分かった状態で単元の学習を始める。生徒自身がこの時間に「何ができるようになれば良いのか」を考え、「めざす姿」に向かって「見方・考え方」を働かせながら学びに向かわせたい。

また、学びのプロセスの中で、前期研究の成果としても挙げた、ルーブリックを用いた質的向上を目指す評価についても継続して行っていく。

手立て3「『ホンモノ』題材の活用」(教科論より)

英語は言葉であり、言葉は文化の表れである。英語という教科は、理科や社会などの内容教科と異なり、教員による自由な題材選択の幅が広い。教科書に掲載されている豊かな題材を入口としながらも、生徒の心を動かし感性を磨くような「ホンモノ」題材を積極的に取り入れ、授業の中で活用したいと考える。世界を変えた名スピーチや目的・想いをもって創られた音楽、心揺さぶる映画や世界の諸問題について真剣に考えるきっかけとなる映像など、「ホンモノ」の熱量を感じさせたい。そのような生きた題材を通して行われる意見交換やスピーチ、ディスカッションなどの言語活動は、生徒が実際に自分の考えや気持ちなどを相手に伝えたいくなるような、主体的に英語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養うに資するものであり、「真に思考力、判断力、表現力を育成するような言語活動」(中央教育審議会答申)であると言える。「ホンモノ」を活用した、実質的な言語活動を行うことで、内容豊かなコミュニケーションを図ることができる生徒を育成したい。

また、学年を超えて互いの「ホンモノ」の考えや気持ちを交流することで、自己の学びの過程を振り返ったり、見通しをもったりすることがより実感を伴って可能になる。そこで、授業の中で先輩の発表映像を見せたり、「英作文集」を作成したりすることで、各学年で活用し学び合えるような仕組みづくりについても検討を始めている。

3 単元計画

(1) 育成を目指す資質・能力

	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
英語科で身に付ける 資質・能力	・習得した外国語の知識や技能を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用する力。	・コミュニケーションを行う目的・場面・状況に応じて、言葉の曖昧さに耐えながら、外国語で柔軟に自分の考えを伝え合う力。	・相手を尊重し、傾聴や考えの深化・再構築をしながら、外国語を用いて双方向のコミュニケーションを図ろうとする力。 ・多様な話題に興味・関心をもち、自らの感性を磨きながら、外国語を用いて豊かにコミュニケーションを図ろうとする力。
単元で身に付ける 資質・能力	・習得した知識や技能を、イギリスや日本の児童文学、物語のあらすじを相手に伝えること（話すこと）で活用する力。	・初めて物語を聞く人に対して、分かりやすい英語で表現するための工夫を考え、言葉の曖昧さに耐えながら、日本の物語のあらすじを伝える力。	・日本の物語のあらすじについて、相手に分かりやすく伝えようとしたり、相手の英語に耳を傾け、理解しようとしたりする力。 ・自己の振り返りや他者のアドバイスから学び、伝える内容や伝え方を再工夫しようとする力。

(2) 指導目標

- ①日本の物語のあらすじについて、相手に分かりやすく伝えるための工夫をし、適切に表現させる。
【思考・判断・表現】
- ②物語のあらすじを伝えるために必要な言語材料について正しく理解させ、適切に使わせる。
【知識・技能】
- ③聞き手、話し手が相互に配慮し合い、共感的にコミュニケーションを図る態度を養う。
【主体的に学習に取り組む態度】

(3) 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①単元で学習する言語材料（be動詞の過去形、過去進行形、接続詞 when、語彙等）を含む文について、形、意味、使い方を理解しており、実際の場面で使う技能を身に付けている。	①物語のあらすじについて、相手に分かりやすく伝える工夫をし、英語で適切に伝えることができる。【話すこと】	①【話し手】本単元の題材について関心をもち、自分で何度も練習を重ね、あらすじを分かりやすい英語で伝えようと工夫している。 ②【聞き手】相手が話している内容について関心をもち、反応や理解を示しながら耳を傾けようとしている。 ③言語活動に関心をもち、自分の考えや気持ちについて主体的に相手と交流している。

(4) 単元に該当する指標形式の目標（本校 CAN-DO リストから抽出）

話すこと (発表)	物語や有名人紹介について、事実や考えを整理し、まとまりのある内容を話すことができる。
--------------	--

(5) 指導計画及び評価計画

時	学習課題 ・ 学習内容 ◆ 指導の留意点 ★ フィードバック	関連する評価の観点			見とりの視点 【評価方法】
		知技	思考	態度	
1	What is important when you tell stories? (Introduction) ・本単元の題材（児童文学、ピーターラビット）について知る。 ・本単元のゴール（海外の方に伝えたい日本の物語のあらすじを、絵を使いながら読み聞かせすること）を知る。 ・単元の学習の流れを確認する。（単元ナビ） ・単元のまとめの活動の視点・ポイントについて、合意形成を図りながら共に作成する。（ルーブリック評価表） ◆単元を通してなりたいたい自分を想起させる。		①	①	ゴールの場面を想起し、まとめの活動で必要な視点・ポイント（＝工夫）について自ら考えているか。 【単元ナビ】【観察】

2	<p>How was your school event last year? (GET1-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の過去形を含む文の構造を理解する。 ・be 動詞の過去形を用いて、過去（先週末、昨年など）の自分や他者の気持ちについてやり取りを繰り返しながら、言語材料の定着を図る。 ◆席を移動することで、様々な人と交流させる。 ◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。 	①		③	<p>習得を目指す言語材料を活用しながら、主体的に言語活動に取り組んでいるか。</p> <p>【観察】 【後日ペーパーテスト】</p>
3	<p>Let's make a biography of your friend. (GET2-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去進行形、接続詞 when を含む文の構造を理解する。 ・過去進行形、接続詞 when を含む文を活用しながら、自分の人生を振り返る英文を書く。 ・友人の人生について取材インタビュー活動を行い、聞き取った内容を英文で書く。 ◆席を移動することで、様々な人と交流させる。 ◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。 	①		③	<p>習得を目指す言語材料を活用しながら、主体的に言語活動に取り組んでいるか。</p> <p>【観察】 【後日ペーパーテスト】</p>
4	<p>Why did Ms Potter make the story of Peter Rabbit? (GET1-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・be 動詞の過去形を含む文の使い方を、教科書本文を通して理解する。 ・教科書本文の内容を理解し、ピーターラビットの物語が生まれた背景について知る。 ・単元のまとめの活動（＝読み聞かせ）の視点・ポイントを働かせながら、音読練習を行う。 ・本時の学習課題について、英語でまとめの英文を書く。 ◆単元末のまとめの活動と系統性を持たせる。 ◆音読の自己評価、相互評価の際にルーブリックを使用する。 	①		① ②	<p>教科書本文について、音読の目的に応じて内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。</p> <p>【観察】 【後日ペーパーテスト】</p>
5	<p>What book did you read when you were a child? (GET2-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・過去進行形、接続詞 when を含む文の使い方を、教科書本文を通して理解する。 ・教科書本文の内容を理解する。 ・子供の頃に読んだ本についてインタビュー活動を行う。 ・現段階の目標に対する振り返りを行う。（単元ナビ） ◆席を移動することで、様々な人と交流させる。 ◆コミュニケーションが苦手な生徒への声かけ、支援を行う。 ★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。 	①	①	③	<p>習得を目指す言語材料を活用しながら、主体的に言語活動に取り組んでいるか。</p> <p>まとめの活動で必要な視点について自ら考えているか。</p> <p>【単元ナビ】【観察】 【後日ペーパーテスト】</p>
6	<p>What is the outline of Peter Rabbit? (USE-R 1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーターラビットについて、まとまった量の英文を読み、英問英答を行いながらあらすじを把握する。 ・意味内容にふさわしい音声化について考えながら教科書本文の音読を行う。 ◆内容に適した読み方について共有する。 ◆音読の自己評価、相互評価の際にルーブリックを使用する。 			① ②	<p>物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。</p> <p>【観察】【第 11 時パフォーマンステスト】</p>
7	<p>Let's become a better storyteller. (USE-R 2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ピーターラビットについて、物語の音読、リテリングやリライティングを行う。 ・ルーブリックによる相互評価を随時行い、自ら目標をもった上で活動に取り組む。 ・現段階の目標に対する振り返りを行う。（単元ナビ） ◆音読の自己評価、相互評価の際にルーブリックを試用する。 ★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。 			① ②	<p>物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。</p> <p>まとめの活動で必要な視点について自ら考えているか。</p> <p>【単元ナビ】【観察】【第 11 時パフォーマンステスト】</p>

8	<p>Let's make an outline for storytelling. (まとめ-1)</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分が選んだ日本の物語について、要点を整理した上で、あらすじを作成する。 読み聞かせで使用する資料を作成する。 ◆平易な英語で表現できるよう、必要に応じて支援を行う。 	①	①	物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。 【観察】【第11時パフォーマンステスト】
9	<p>Let's become a better storyteller. (まとめ-2)</p> <ul style="list-style-type: none"> 作成した資料を用いて、あらすじの読み聞かせ練習を行う。 ペアでそれぞれの選んだ物語について交流し合う。 ルーブリックによる相互評価の練習を行う。 ◆内容に適した読み方について共有する。 ◆音読の自己評価、相互評価の際にルーブリックを使用する。 	①	① ②	物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。 【観察】【第11時パフォーマンステスト】
10 本時	<p>Let's become an expert storyteller. (まとめ-3)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の物語について、ペアで相互に読み聞かせの練習を行う。 相手からももらったアドバイスを受けて、自分のあらすじや読み聞かせの仕方について再考する。 現段階の目標に対する振り返りを行う。(単元ナビ) ★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。 	①	① ②	物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。 【単元ナビ】【観察】【第11時パフォーマンステスト】
11	<p>Let's become an expert storyteller. (まとめ-4)</p> <ul style="list-style-type: none"> 4グループに分かれ、一人ずつ教員の前でパフォーマンステストを行う。(VTR撮影) テスト後、担当教員からフィードバックのコメントをもらう。 ◆ルーブリックを用いて評価を行い、次時の代表者を選出する。 	①	①	物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。 【パフォーマンステスト】
12	<p>Let's review Lesson2. (まとめ-5)</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表者が学級の前で読み聞かせを披露する。 現段階の目標に対する振り返りを行う。(単元ナビ) 単元を終えて、自分ができるようになったこと、級友から学んだこと、次の単元以降で身に付けたい力などを記述する。 ★単元ナビの振り返りに対する個人内評価を行い、肯定的なフィードバックを行う。 	①	①	物語のあらすじについて、内容を分かりやすく伝えようと工夫しているか。 【単元ナビ】【作品】
後日	<p><ペーパーテスト></p> <ul style="list-style-type: none"> 初見の物語を読み、内容理解を問う問題 場面を与えて、適当な表現を書く問題 	①	①	単元で学習した言語材料について理解し、適切に使うことができるか。【ペーパーテスト】

※網掛け部分が単元のメインとなる評価場面。

(6) パフォーマンス評価に使用するルーブリック評価表

評価項目 / スコア		0	1	2	3	4
観点	視点・ポイント					
	①相手意識 (声量、目線、ジェスチャー)		相手に伝わるような適切な声量で伝えている。	適切な声量で、ジェスチャー(図示)をしながら伝えている。	適切な声量で、相手の反応を見たり、ジェスチャー(図示)をしながら伝えている。	適切な声量で、相手の反応を見ながら話すスピードや順序、内容を調整したり、ジェスチャー(図示)をしながら伝えている。
	②工夫 (間、緩急、強弱、声色を変える)	相手意識が欠如しており、理解する上で聞き手は非常に苦労強いられる。あるいは全く理解不能である。	全体的に工夫が見られず、ただあらすじを音読するだけであり、聞き手が興味をもって聞けない。	間を空けたり、話すスピードに緩急をつけたりして、相手に伝える工夫をしており、聞き手が多少は興味をもって聞くことができる。	間や緩急に加え、声量の強弱を使い分けることで、相手に伝える工夫をしており、聞き手が興味をもって聞くことができる。	間や緩急、声量の強弱や声色など、自由自在に伝え方を工夫し、聞き手が興味をもって話を聞くことができる。
③英語らしさ (発音、抑揚、語と語のつながり)		全体的に発音や抑揚の誤り、不自然な沈黙などが多く、聞き手に負担がかかるが、簡単な単語の発音や抑揚は正しい。	発音や抑揚の誤り、不自然な沈黙など、聞き手にやや負担がかかるが、理解できる程度の発音や抑揚である。	部分的な発音や抑揚の誤りはあるが、聞き手はあまり負担を感じず、理解しやすい発音や抑揚である。	全体を通して正しい発音、抑揚であり、語と語のつながりもスムーズで理解しやすく、聞き手に負担がかからない。	
内容	①構成(まとめ)					
	②分かりやすさ(相手意識、既習語彙・表現の活用) ※相手=海外の方	発表していない。または、全体を通して出題のテーマから外れた内容を発表している。	段落構成を意識した内容ではないが、単文でいくつかの内容を発表している。	段落構成を意識した内容で発表している。	段落構成を意識した上で、相手意識(海外の方に伝える)をもち、発表している。	段落構成を意識し、相手意識や既習表現の活用をしながら分かりやすく発表している。

4 本時について

(1) 主題 Let's become an expert storyteller.

(2) 指導目標

- ・相手のアドバイスを聞きながら、読み聞かせの内容や伝え方を再工夫させる。

(3) 評価規準

- ①【話し手】日本の物語について関心をもち、自分で何度も練習を重ね、あらすじを分かりやすい英語で伝えようと工夫している。【主体的に学習に取り組む態度】
- ②【聞き手】相手が話している日本の物語のあらすじについて関心をもち、反応や理解を示しながら耳を傾けようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

(4) 指導の構想

本時は単元のまとめの活動の時間のうち、読み聞かせのパフォーマンステストの前時にあたる。単元を貫く「物語のあらすじを読み聞かせする」というテーマについて、読み聞かせの内容や伝え方の工夫を再考し、次時の発表（パフォーマンステスト）に備える1時間である。

導入では、前時までに獲得した「読み聞かせのポイント」（見方・考え方）を再確認するとともに、本時で目指したい”expert storyteller”の姿を映像で具体的に想起させた上で、本時の学習課題を提示する。作成した原稿にこだわり、文法的に正しい英文を正確に再生することに主眼を置くのではなく、あくまでも原稿が無い状態で相手に伝える、相手に物語のストーリーを楽しんでもらうという、相手意識のある読み聞かせを行わせたい。そのために、物語の話し手だけではなく、聞き手の姿勢、何とか理解しようとする態度も大切であることを共有したい。

展開では、はじめに、前時までの成果と導入での確認内容を踏まえて、本時の個人目標を設定させる。その上で、読み聞かせの個人練習を行わせる。その後、初めてその物語のあらすじを聞くペア（前時までの座席とは異なる左右、前後、斜めの相手）に、読み聞かせの練習を繰り返し行わせる。表情をうかがったり、やり取りをしたりすることで、相手が本当にあらすじを理解できているか確かめ合いながら行わせたい。ペア練習が1回終わるごとに、ペアで、すでにできていることや相手の優れている部分（参考にしたい部分）、まだできていないこと（課題）などを分析、認知する。一つ上の基準を達成するために、何をどう頑張れば良いのかという道筋をアドバイスし合う。一人一人が自分の目標を達成できるよう、共感的に交流、練習させたい。その後、学級全体で、話し手・聞き手の双方について、良かったところやアドバイス（改善点）を共有する。2回目、3回目のペア練習で相手から同じ課題を挙げられないよう、現状から少しでも質的に高められる練習になるよう促す。

展開の中盤では、前半のペア練習の中で参考にしたい読み聞かせをしていた級友を紹介し、読み聞かせを発表してもらおう。素晴らしかった点、真似したい点について交流することで、発表者、聴衆の双方の意欲換気を促したい。自分たちと同じ条件下の等身大のモデルの発表を学級全体で共有することで、より高次のパフォーマンスができる自分への憧れを抱かせ、より具体的な自分の「目指す姿」を意識させることができる。その後、改めて本時の個人目標を設定させた上で、個人練習の時間を設ける。

展開の終盤では、再び展開序盤のペア（左右）と練習を行わせる。1回目の練習と比較しながら、改善・向上が見られる点を積極的に褒め合いたい。また、本時最後の練習として、2回目のペア練習を行う。次時のパフォーマンステストに向け、本時の中で最高のパフォーマンスを期待する。

終結では、実際に相手に向かって読み聞かせをしたことで感じた大切なポイントについて、本時の学習シートに記入したものを、全体で交流し共有する。本時を通してできるようになったこと、次時に向けてさらにできるようになりたいこと、本時を通しての感想などを広く交流した上で、次時のパフォーマンステストに向かわせたい。

初めて物語を聞く人に、分かりやすくあらすじを伝えるために大切なことは何か、ということについて、単元の中で題材を変えたり、他者と関わったりしながら考えてきた。多くの級友とペアを組み、練習を繰り返すことで、そのポイント（見方・考え方）をより深化させ、題材が変わったとしても、場面が変わったとしても、揺るがない汎用的な視点へと昇華させていきたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容および学習活動 ・予想される生徒の反応等	時間 (分)	評価規準および評価 ・指導の留意点 ○評価
導入	<p><u>0 3分前学習</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 英語の歌”Rather Be”を歌う。 <p><u>1 あいさつ</u></p> <p><u>2 ゴールの確認</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時のねらいと流れを共有する。 読み聞かせのポイントを再確認する。(技能・内容) <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【技能】相手意識 (声量・ジェスチャー・目線) 工夫 (間・緩急・強弱・声色の変化) 英語らしさ (発音・抑揚・語と語のつながり)</p> <p>【内容】構成 (まとめり) 分かりやすさ (相手意識・既習語彙や表現の活用)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ”expert storyteller”の読み聞かせモデルを映像で視聴し、優れている点を共有する。 目標達成のためには聞き手の姿勢も大切であることを再確認する。 	7	<ul style="list-style-type: none"> 前時までと異なるペアが組めるよう、座席を移動させておく。 前時に視聴した先輩 (卒業生) の映像も想起させる。 物語(題材)の内容を伝え合うことに主眼を置くように伝える。
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>Let's become an expert storyteller.</p> <p>(聞き手 : Let's enjoy our friends' stories.)</p> </div>			
展開	<p><u>3 個人練習①</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の個人目標を設定し、読み聞かせの練習を行う。 <p><u>4 ペア練習① (2回)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ペア (左右, 前後) で読み聞かせの練習を行う。 練習が終わるたびに、発表内容や伝え方について褒め合ったり、アドバイスをし合ったりする。 相手の良かった点や相手からもらったアドバイスについて全体で共有する。 <p><u>5 全体共有</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 代表数名が学級全体の前で発表を行う。 良かったところ、参考にしたい点について共有する。 <p><u>6 個人練習②</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 本時の個人目標を再度設定し、読み聞かせの練習を行う。 <p><u>7 ペア練習② (2回)</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ペア (斜め) で読み聞かせの練習を行う。 発表内容や伝え方について褒め合ったり、アドバイスをし合ったりする。 	3 15 7 3 8	<ul style="list-style-type: none"> 練習を繰り返す中で、より高次の個人目標を設定させ、パフォーマンスの質を高めさせる。 <p>①【話し手】日本の物語について関心をもち、自分で何度も練習を重ね、あらすじを分かりやすい英語で伝えようと工夫している。【態度】</p> <p>②【聞き手】相手が話している日本の物語のあらすじについて関心をもち、反応や理解を示しながら耳を傾けようとしている。【態度】</p> <p>※【公開授業限定】本時最後のペア練習では、<u>参観の先生方に読み聞かせを行わせていただき、先生方から感想やアドバイスをいただく。</u></p>
終結	<p><u>8 学びの振り返り</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 学習シートに本時の振り返りを記入する。 振り返りの内容について、全体で共有する。 <p><u>9 あいさつ</u></p>	7	<ul style="list-style-type: none"> 単元ナビ (単元の振り返りシート) は、宿題として次時まで記入させておく。